昭和49年10月5日　第三種郵便物認可　令和7年3月20日発行　号外

障害者福祉の「今」を伝える「父母の会」の活動情報誌

ZSZ No.146 2025. 3. 20発行

わ

第57回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
第58回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会
ご報告

令和6年能登半島地震における障害児者や医療的ケア児者を抱える家族の避難と避難所生活の実情と改善提案について

第4回あーと展覧会2024
WEB展覧会について

第4回あーと展覧会2024
応募者一覧

2024年度
さわやかレクリエーション
活動報告

全肢連
一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会
National Federation of The Physically Disabled and Their Parents Associations, ZENSHIREN
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11　福祉財団ビル5F　TEL 03(3971)3666　FAX 03(3971)6079
URL : https : //www.zenshiren.or.jp　URL : https : //www.facebook.com/ZENSHIREN　E-mail : web-info@zenshiren.or.jp

全肢連は、障害児者の親たちが、互いに助けあい、力をあわせていけるように努力しています。障害児者が1人の人間として、生きがいの持てる地域社会づくりをめざしています。

ご報告

第57回 全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会

第58回 近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会

「住み慣れた地域で自分らしく生きる」
～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～

令和6年9月14日（土）～15日（日）
参加人数　572名

会場　なら100年会館（奈良県奈良市）

開会セレモニー　　総合司会　中川　直子

物故者ならびに能登半島地震被災者に黙祷

開会のことば	全国肢体不自由児者父母の会連合会副会長　松田郁夫
大会委員長挨拶	奈良県肢体不自由児者父母の会連合会会長　前田妙子
主催者挨拶	全国肢体不自由児者父母の会連合会会長　清水誠一
大会名誉会長挨拶	奈良県知事　山下真
開催地歓迎挨拶	奈良市長　仲川げん
来賓祝辞	厚生労働大臣　武見敬三
	文部科学大臣　盛山正仁
	内閣特命担当大臣　加藤鮎子
	衆議院議員　小林茂樹
	参議院議員　堀井巌
	社会福祉法人日本肢体不自由児協会理事長　遠藤浩
	華厳宗大本山東大寺大224世別當
	社会福祉法人東大寺福祉事業団総裁　橋村公英

（敬称略）

「住み慣れた地域で自分らしく生きる～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～」をテーマに、令和６年９月14日（土）～15日（日）奈良県奈良市にある「なら１００年会館」にて、ご来賓・関係者及び多くの会員の出席のもと、開催されました。

大会は、物故者ならびに能登半島地震被災者への黙祷からはじまりました。大会委員長でもある奈良県肢連前田妙子会長は、冒頭「あおによし　奈良の都は咲く花の　匂うがごとく今盛りなり」と万葉集の言葉を引用し、大会が奈良で開催されたことに、感謝の意を述べられました。そして、障害者を取り巻く様々な障壁をなくし、障害のある人もない人も誰もが豊かに暮らしていける社会の実現のために、大会に集った皆さま方と共に考え、課題を共有し、解決に向かって今後の活動につなげていきたいと話されました。

続いて全肢連清水誠一会長は、大会準備に奔走された前田会長及び奈良県肢連スタッフをねぎらい、全国の地域父母の会会員をはじめとする関係者の更なるご健勝とご活躍を祈念申し上げました。

奈良県肢連　前田会長

また、介護人材の不足や事業所運営の厳しさにより、生活介護事業所や短期入所施設は、縮小・閉鎖を余儀なくされ、特に重度障害者や医療的ケアを必要とする児者や家族にとって、施設が利用で

全肢連　清水会長

きない深刻な問題の解決に向けて、国へ要望していく旨等を話されました。

その後、大会名誉会長山下真奈良県知事の挨拶、仲川げん奈良市長から開催地歓迎挨拶、武見敬三厚生労働大臣、盛山正仁文部科学大臣、加藤鮎子内閣府特命大臣（こども政策）からの祝辞を披露いただきました。

次に、奈良県選出の小林茂樹衆議院議員、堀井巌参議院議員、社会福祉法人日本肢体不自由児協会の遠藤 浩 理事長、華厳宗大本山東大寺第２２４世別當社会福祉法人東大寺福祉事業団橋村公英総裁より祝辞をいただきました。

全肢連顧問の衛藤晟一参議院議員、野田聖子衆議院議員、岩本剛人参議院をはじめ多くの祝電もいただきました。

「第57回全肢連全国大会及び第58回近畿肢体不自由児者福祉大会が、奈良県において盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

平素より清水会長はじめ貴連合会の皆様には大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。又、石川県肢連の松田会長から被災地の現状報告があるとお聞きしていますが、能登地域をはじめ石川県の一日も早い復旧・復興のために微力ながら尽力することをお誓い申し上げます。

提出され障害福祉サービスも２００６年に施行された障害者自立支援法を契機に義務的経費となり、こども家庭庁に移管された障害児予算を合わせると国費で２兆円を超え地方分も合わせると４兆円半ばになりました。これも全肢連をはじめ障害児者団体のご支援の賜物と感謝する次第です。

しかし、重症心身児者等まだまだ課題も山積されており皆様のご要望をお聞きしながら更なる充実を目指す所存ですのでよろしくお願い致します。

結びに２日間の大会が実り多きものになりますよう期待すると共に貴連合会のますますのご発展、ご参集の皆様のご健勝をお祈り申し上げます」

自由民主党障害児者問題調査会会長参議院議員
衛藤晟一

「第57回全国肢体不自由児父母の会連合会 全国大会ならびに第58回 近畿肢体不自由児者福祉大会 奈良大会』ご開催にあたり、常日頃、肢体不自由・者の福祉の増進、社会的啓発及び自立による社会参加推進等に向けて、ご尽力されている皆さまに深く感謝を申し上げます。

これまでわが国では、例えば子育てや介護など、暮らしの中で様々な困難に遭っても、地域や家族での助け合いなど、様々な生活の場面において、支え合いの機能が存在しました。しかし、今は高齢化や人口減少が進み、介護人材の慢性的な不足、高齢化した親が障害者を介護する８０５０問題や介護サービスの地域間格差、さらには障害児・者への理解不足等、支え合い機能どころか、様々な課題が顕在化しています。

今回大会テーマとして、「住み慣れた地域自分らしく生きる～重層的支援体制誰一人取り残さない社会をめざして～」を掲げられているように、参加の皆さまが、障がい児・者が安心安全に、そして心豊かに生活できる環境作りのための手がかり・ヒントを発見されることを期待しています。

先月、令和６年１月の能登半島地震の被災地である石川県輪島市へ行き、私が今取組んでいる情報通信施策に関する視察の他、グループホームや福祉避難所にも訪問する機会を得ました。ご存知のとおり、福祉避難所とは、災害時に高齢者・障害者・乳幼児といった特別な配慮が求められる人たちが、安全な状態で避難するための施設です。視察では、認知症や知的障害者、強度行動障害等、様々な特性を抱えている方々が、一緒に避難生活を送るなかでのさまざまな課題を目の当たりにしました。

そして視察を終え、「重層的支援体制」はもちろんのこと、避難所の基本的なあり方についても考えていく必要があるのではないかと考えています。いわゆる一般的な避難所があり、介護や障害など「支援を必要としている人」たちが、「使わせてもらう」というのではなく、最初から「支援を必要とする人」をまんなかに置き、他の人も使えるという形に変えていけばいいのではないか、それであれば誰一人取り残されることのなく、「支援を必要とする人」に必要な支援の手がしっかりと届くのではないかと思います。

最後になりますが、「全国肢体不自由児者父母の会連合会」のさらなるご発展と、本日ここにお集まりの皆さま方のご健勝を心から祈念いたしますとともに、今後とも、障害のある方もない方も分け隔てなく、お互いを尊重し、地域のなかで一緒に暮らすことができる社会、皆が活躍できる社会の実現に向け、私も一層の努力を重ねていくことをお約束し、挨拶の言葉といたします」

衆議院議員　野田聖子

「第57回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会並びに第58回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会」が、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」～重層的支援体制　誰一人取り残さない社会をめざして～」をテーマに、なら100年会館を会場に盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本年4月、国は「第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画」を改訂し、障害当事者の方々始めご家族皆さまが生涯を通し安心・安全に暮らすことのできる社会となるように、私も、全肢連の役職員の皆さまと力を合わせ実現に向け国政で尽力してまいります。

令和7年度に向けた概算要求も取りまとめられました。全肢連様とは毎年11月頃に行ってきた厚生労働省等への要望事項も障害福祉サービス等のニーズを的確に把握し予算案に反映できるよう共に汗をながす決意です。

改めて、本日の全国大会で会員皆さまの絆が深まり、子どもたちの未来が希望に満ちた社会となることを祈念いたしますとともに、奈良県肢連様はじめ、ご来会の会員皆さまのご健勝・ご活躍をお祈り申し上げご挨拶といたします」

参議院議員　岩本剛人

最後に大阪府肢連橋本会長より「閉会のことば」が述べられ、開会式が終了しました。

開会式後には、石川県肢連　松田郁夫会長（全肢連副会長）より、令和6年1月1日に起きた「令和6年度能登半島地震被災地の現状」の特別報告がありました。

松田会長は、「令和6年1月1日午後4時10分、能登を襲った最大震度7の地震は残酷にも新年を寿ぐ家々を襲いました。過疎・高齢化が進む土地ですが、そこに暮らす人たちが一年で最も待ち遠しい時間でした。久し振りに集う家族。お節料理やお雑煮、お年玉など。この地震は大切な家族と家と街を奪いました。その時、何が起きたのか。被害を少しでも小さく、そして多くの命を守る術はあったのか。南海トラフの地震情報などが発表されるなど、いつ起こるのかわからない大地震に備える地域で、この話が少しでもお役に立てることを願います。能登は半島地形が災いし、半年以上が経過した今も復旧・復興がまだまだ進んでいません。仮設住宅への入居は目途がたってきたものの、今もなお不自由な避難生活を送る住民も数多くいます。能登の人たちが、また震災前の幸せな暮らしを送れるよう私たちも支援を続けていきたいと強く思っています」と話されました。

オリィ氏の講演の様子

休憩をはさみ特別講演「誰一人取り残さない社会の実現をめざして～コミュニケーションテクノロジーで人類の孤独を解消する～」をテーマに、株式会社オリィ研究所所長の吉藤オリィ氏に講演いただきました。

黒い白衣で、OriHimeと一緒に登壇し、分身ロボットでの可能性について、講演いただきました。

講演の要旨は、全肢連情報787号に掲載しましたので、全肢連ホームページをご参照ください。

1日目最後になる記念講演では、華厳宗大本山東大寺の狭川普文長老に「奈良時代の医療福祉体制」について、お話いただきました。

狭川普文長老

狭川長老は、「奈良時代の医療福祉体制は、唐の律令を手本にしながらも、日本独自の『大宝律令』を制定し法治国家の樹立を目指した中で整えられていく。そのような国家においては、天皇は国土を治め、人を慈しむ責任を負うとされた。そうした統治観念は、医療行政や高齢者・障害者の保護とい

う政策に反映されていった」と、話されました。

そして、奈良時代に発令された医疾令、当時の中国の医療体制、施薬や食料支給の対象者、中国から医療・福祉の情報を持ち帰った人物、福祉事業展開の根拠（福田の考え方など）、光明皇后の考え、現代における福祉と防災の問題など、時にはユーモアをたっぷり交えながら話してくださいました。

2日目は、二つの分科会が開催されました。

第一分科会では、シンポジウムが行われ、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」をテーマに、コーディネーターにバリアフリー研究所所長・元天理大学准教授・奈良県障がい者施策推進協議会会長の八木三郎氏、シンポジストとして、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会副理事長の清水明彦氏、公益社団法人京都市身体障害児者父母の会連合会事務局長の 久門誠氏、社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽ生活支援センター相談支援専門員の内山尚子氏、奈良県肢体不自由児者父母の会連合会会長（障害者家族）の前田妙子氏の4名で行われました。

第二分科会では、パネルディスカッションが行われ、「インクルーシブ防災～みんなで助かる防災を考えよう～」をテーマのもの、個別避難計画の必要性と限界、福祉避難所の在り方を議題に、コーディネーターに兵庫県立大学大学院減災復興政策研究所准教授　松川杏寧氏、パネリストに石川県肢体不自由児者父母の会連合会会長の松田郁夫氏、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会福祉防災上級コーチの温井 恵美子氏、尚絅大学短期大学部総合生活学科講師の 吉村千恵 氏の3名で行われました。

閉会式では、奈良県肢連田口美智子副会長より、大会決議文が読み上げられ、満場の拍手にて採択されました。

一、「一人一人が住み慣れた地域で自分らしく生きられる社会」すなわち、すべての国民が障害の有無にかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながらともに生きていける社会を実現すること
一、障害者支援に携る人材不足の解消に向けて、早急なる処遇改善と地位向上、人材育成を実現すること
一、労障介護など障害者とその家族を取り巻く複雑化した問題解決のために、重層的支援体制により横断的・包括的に支援すること
一、医療的ケアの必要な人や重複障害のある人に対応できるグループホーム設置を進捗させる体制を国の制度で整えること
一、障害児者の自立と社会参加の促進のために、情報通信技術（ＩＣＴ）の利用を拡大すること
一、肢体不自由児者への移動支援は、外出の範囲や目的（通学・通勤）、利用地域に関わりなく、国の介護給付とすること
一、肢体不自由児者の社会参加を促進するため、公共機関のバリアフリートイレに、大人のおむつ交換可能なベッドの設置を法令で義務化すること
一、すべての市町村における個別避難計画作成の促進と、火災時における障害特性に合った支援や福祉避難所および仮設住宅の充実を図ること

全肢連では、令和6年9月25日にこの決議文を国（厚生労働省・文部科学省・こども家庭庁）に提出しました。

令和7年度は9月27日（土）～28日（日）に北海道札幌市にて開催します。

日本財団助成「重度障害者（医療的ケア含む）が地域で格差なく暮らせる社会の創造」事業 令和５年度報告書について

全肢連では、公益財団法人日本財団から助成を受けて、「重度障害者（医療的ケア含む）が地域で格差なく暮らせる社会の創造」事業を実施してまいりました。令和５年度は、「重度障害者対応共同生活援助の支援体制の在り方」検討事業として調査やシンポジウム等を行いました。

事業終了にあたって作成いたしました「報告書」に一部誤りがありました。すでに、全肢連ホームページで公開しているものは修正済みです。ここにお知らせしますとともに、関係各位にお詫び申し上げます。

全肢連では、令和6年度にJKA補助事業として実施しました研修事業の中で、「災害時個別避難計画の作成と、避難先の確保と訓練について」を報告書としてまとめ、ホームページ（https://www.zenshiren.or.jp）で紹介しています。

「わ」では、その中の一部、「令和6年能登半島地震における障害児者や医療的ケア児者を抱える家族の避難と避難所生活の実情と改善提案について」を紹介します。

（全容はホームページをご参照ください）

令和6年能登半島地震における障害児者や医療的ケア児者を抱える家族の避難と避難所生活の実情と改善提案について

東京大学生産技術研究所防災プロセス工学
沼田研究室リサーチフェロー
日本防災士会本部理事
田中　健一

全国肢体不自由児者父母の会連合会副会長
石川県肢体不自由児者父母の連合会会長
松田　郁夫

令和6年能登半島地震は、障害児者や医療的ケア児を抱える家族にとって避難行動や避難所利用に関する課題を浮き彫りにしました。

避難所、福祉避難所、在宅避難の三つのパターンに分けて実施した障害児者や医療的ケア児者を抱える家族への聞き取り調査の結果を基に、避難時の実情と課題を具体例を交えながら整理し、それを踏まえた改善提案を提示します。

避難時の実情と課題を、具体例を交えながら整理し、それを踏まえた改善策を提案することを目的としています。

特に、障害児者や医療的ケア児者を抱える家族の視点に立った課題の分析を通じ、災害時の包括的かつ実効性のある支援体制の構築に向けた指針を示します。

【調査結果に基づく課題の整理】

〈避難行動に関する現状と課題〉

(1) 避難所に行けなかった理由

・他者への迷惑を懸念

多くの障害を抱える子どもの親たちは、「子どもが急に大きな声を出すので迷惑になる」、「子どもが落ち着きがなく避難所にはいられない」といった理由から避難を断念しました。一部の親は、「子どもがタブレットを見ることで静かになるが、音量を無意識に上げてしまうため迷惑がかかる」との懸念を述べています。これらは、障害児の行動特性が他者に与える影響を親が過度に気にしている状況を反映しています。これにより、避難所での生活は困難と判断し、車中泊や自宅での避難を選択した事例が多数報告されています。

・プライバシーの欠如とストレス

避難所の環境では、集団生活によるプライバシーの欠如や他人との接触によるストレスが大きな問題として挙げられています。例えば、避難所の環境について「騒がしい場所でストレスを感じた」、「仮設トイレの便座が冷たく、数が足りな

かった」との意見が多く、特に余震が続く中での安全で安心できる空間の不足が避難を妨げる一因となっています。

(2) 避難先の情報不足

「福祉避難所の場所や数が不明」、「登録済みの避難所が満員で利用できなかった」との声が挙がっています。一部の避難者は「テレビや他の情報源で福祉避難所の案内がほとんどなかった」と証言しており、情報の周知不足が大きな課題とされています。このように避難所や福祉避難所の場所や利用条件に関する情報が十分に提供されておらず、適切な避難先を選択できなかったという指摘がありました。特に、テレビや市の広報が福祉避難所の情報を明確に周知していなかったため、支援を受ける機会を失った事例が報告されています。

(3) 避難における備蓄の課題

・水の備蓄と利用

災害時の断水に備えた水の確保は、多くの家庭で課題となりました。例えば、20Lのコック付きポリタンクやペットボトルの活用により、給水車や地域の湧き水を利用した事例が挙げられます。一方で、水が生活用水として十分でなく、洗濯やトイレに困った家庭が多くありました。

・食料の備蓄

非常食やインスタント食品の備蓄が重要視されています。特に、冷凍食品やカップスープなどの簡易調理可能な食品が便利である一方で、子どもの嗜好に合った食品の備蓄が不十分であったとの報告もあります。

・日用品と衛生用品

サランラップや使い捨て食器、簡易トイレシート、大判おしりふきといった日用品の備蓄が、避難生活の快適性向上に寄与した一方、量が不足したケースも多く見られました。

(4) 在宅避難者と支援物資の課題

・在宅避難者への支援不足

避難所に行けない在宅避難者には、物資の配布が届かない場合がありました。特に、「避難所利用者が優先」とされたため、在宅避難者が物資を受け取れない状況が問題視されました。

・支援物資の偏り

オムツのサイズ不足や偏食を持つ子ども向け食品の不足といった、特定ニーズに対応できる物資の欠如が指摘されました。物資の分配が避難所中心で行われたため、在宅避難者への公平な供給が求められます。

(5) 医療的ケアを必要とする家庭の課題

・医療施設の被災

「かかりつけ医療機関が被災し、指定避難先を利用できず車中避難を余儀なくされた」という事例が多く報告されています。

・医療備品の不足

障害児や医療的ケアが必要な子どもを抱える家族は、酸素ボンベなどの医療用品の残量不足が避難所生活を制限する要因となっています。例えば、「断水中に子どもを連れて給水場所に行かなければならなかった」、「物資調達の負担が増大した」という証言があります。災害時の支援不足が顕著でした。酸素ボンベや薬のストックが不足し、緊急時に十分なケアが受けられない状況が課題として浮かび上がりました。また、避難所ではプライバシーや適切なケアが確保されないため、避難そのものを断念せざるを得ない家庭も見られました。

〈避難所に関する現状と課題〉

(1) 避難所環境の問題

・設備の不備

避難所では、仮設トイレの不足や便座の冷たさ、下水処理の不具合が障害児者の生活に大きな影響を与えました。「トイレットペーパーの捨て場に困った」、「トイレが混雑していて使用するのをためらった」、「子どもが嫌がり困った」という状況が多く報告されています。さらに、暖房設備が不十分で、特に冬季の寒さに苦しむ障害児者も多く見られました。灯油の供給不足や暖房器具の制限が、避難生活の質を低下させています。

・プライバシーの確保不足

避難所の多くは個室がなく、周囲の騒音や視線によるストレスが特に障害児者を抱える家族にとって深刻でした。「明るい広間では眠れない」、「他の避難者の視線が気になる」との声もありました。「周囲に迷惑をかけてしまうのではないか」という不安から避難所利用をためらう事例も多く、個室の整備やパーテーションの設置といった対策が求められています。

・食事の困難

提供される食事が、アレルギーや偏食に合わないケースが多発しました。「わがまま」と誤解されることへの精神的負担が報告されました。「子どもの好き嫌いに合わせた食事が用意されず困った」、「市販再開後も必要な食材を見つけられなかった」との発言が多くありました。

・精神的・身体的負担

家族へのストレスとして、「障害児を抱えた避難所生活は体力的にも精神的にも辛い」という声が多数です。「避難所では親が常に気を張らなければならず、ほとんど休めなかった」という具体的な証言もありました。また、「家族みんな便秘になった」、「食事や環境の変化がストレスの要因となった」との報告もありました。

・感染症リスク

「避難所での感染症が心配」、「自衛隊の入浴支援を利用したかったが難しかった」、特に医療的ケア児を抱える家族では「感染症への恐怖から避難所を利用できなかった」という声が多かったです。

・障害への理解不足

避難所管理者による障害理解の不足により、「子どもが嫌な思いをした」、「配慮がなされず苦しい思いをした」という具体例が挙げられました。

(2) 支援物資の分配の不平等

・在宅避難者への支援不足

避難所に物資供給が集中する一方で、在宅避難者や指定外避難所利用者には物資が行き届かない状況が報告されています。「酸素ボンベが不足し、電話も繋がらず大変だった」、「主治医への避難先病院の計画が不十分だった」など、医療的ケアが必要な家庭への支援が不足。また、「避難所に行かないと支援を受けられない」という認識が広がり、在宅避難者は自助努力に頼らざるを得ない状況に置かれました。

・特定ニーズへの配慮不足

「子ども用オムツはあったが、大人と子どもの中間サイズは不足」、「物資の情報が不足していた」との証言もありました。また、障害児者に対応した食事など、特定のニーズに対応する物資が不足していました。このような特別なニーズに配慮した支援体制の整備が必要です。

(3) 子どもや高齢者の支援不足

・子どものストレスと環境適応

避難所では、遊び場やプライバシーを確保できるスペースが不足していることが課題となりました。子どもたちは環境の急激な変化にストレスを抱えやすく、心理的なケアと適切な環境整備が求められます。

・障害者のケア不足

障害児者や医療的ケア児者が避難所で過ごす際の特別なケアが不足しており、適切な支援を受けられない状況が報告されています。福祉避難所の整備や専門スタッフの配置が必要です。

〈避難支援に関する現状と課題〉

(1) 医療的ケアの不足

・医療支援の環境整備不足

避難所での医療支援体制は不十分であり、特に医療的ケアを必要とする人々にとって、避難所の利用は現実的でないとの声が多く寄せられました。また、避難先の医療機関が被災し、必要なケアが継続できないケースも報告されています。

・特定状況への対応不足

「避難所にはクーラーがなく、てんかんの発作を引き起こす温度変化への対応が不安だった（呼吸器疾患を持つ子供の母親の発言）」。夏場の停電時にはクーラーの利用ができず、体温調節が難しい持病を抱える人々にとって、適切な対応策が不足している状況が明らかになりました。特に、てんかんや呼吸器疾患を持つ人々には、温度変化への迅速な対応が必要です。また、避難所に到着したものの、医療用酸素ボンベの管理や医療機器の電源確保が困難で、自宅避難を余儀なくされた事例も報告されています。

(2) 情報提供の不足

・避難に関する情報の遅延

「土砂崩れで自宅が使えなくなり、親族に助けられて二次避難先を見つけたが、市からの情報はほとんど得られなかった（母親の発言）」。土砂崩れなどで自宅が利用できなくなった住民が二次避難先を見つける際、行政の情報提供が十分ではなく、知人や親族の助けを借りる事例が多く見られました。このような状況では、行政による迅速な情報提供が欠かせません。

・福祉避難所に関する周知不足

「避難所の案内はテレビに出ていたが、福祉避難所の案内はなかった（視覚障害児を抱える家族の発言）」。福祉避難所の存在や利用方法についての情報が広く共有されていないため、特に障害児者を抱える家庭では避難の選択肢が限られていました。これにより、避難生活がさらに困難になった事例が多く見られます。

(3) 支援物資の配布と物流の課題

・配送システムの不備

「障害のある子どもが騒いでしまうので、迷惑をかけると思い、避難所ではなく車中泊を選択した（自閉症の子どもの母親の発言）」。高齢者や自家用車を持たない住民にとって、重い水や物資を運搬することが難しく、必要な支援物資を受け取れない状況が生じました。

・特定ニーズへの対応不足

「子どもと大人の中間サイズのオムツが避難所になく、店が再開してからも足りなかった（父親の発言）」。障害者や乳幼児を抱える家庭のための特殊なサイズのオムツや食事、医療用物資が不足している状況が報告されています。特に偏食のある子どもに合わせた食品の支援が求められます。

・精神的・身体的負担

「避難所生活で家族全員が便秘になり、特に子どもが体調を崩した（父親の発言）」。避難生活のストレスから、家族の健康問題が発生するケースも少なくありません。

・金銭的支援の即時化（支援金給付の遅れ）

被災者への金銭的支援が迅速に行われないことが、生活再建の妨げとなっています。特に、収入減少や修繕費の増加により、経済的負担が増大した家庭が多く報告されました。

・子どもの保護体制（親と離れた場合の対応不足）

災害時に親と離れた子どもの保護体制が不十分であり、子どもが一人でも安全に避難生活を送れるような仕組みが必要とされています。特に、コミュニケーションに課題のある子どもに対する特別なケアが求められます。

【改善提案】

○福祉避難所の整備

福祉避難所の数を増やし、障害者や高齢者が安心して利用できるように環境を整備することが求められます。また、事前登録制度を活用し、対象者に分かりやすく利用方法を周知することが必要です。

○在宅避難者への支援体制

在宅避難者にも公平に物資を届けるため、配達システムや支援スタッフの派遣を強化すべきです。特に、高齢者や障害者には、重量物の運搬をサポートする仕組みが求められます。

○医療的ケアの強化

医療的ケアが必要な家庭に対し、避難所内での医療対応を可能にするための設備や専門スタッフの配置が必要です。また、かかりつけ医療機関との連携を強化し、災害時に適切なケアを継続できる体制を整備するべきです。

○情報提供の迅速化

避難所や福祉避難所の情報、支援物資の供給情報を、テレビやラジオ、インターネットなどを通じて迅速に提供する仕組みを構築することが必要です。

〈避難所に関する改善提案〉

(1) 避難所環境の改善

・設備の充実

仮設トイレの数を増やし、便座の断熱シートや暖房便座の導入を検討することが求められます。また、寒冷地での避難には十分な暖房設備と燃料の確保が必要です。

・プライバシーの確保

個室やパーテーションを設置し、プライバシーを確保することで、避難者のストレスを軽減することができます。特に、障害者や子どもを持つ家庭にとって重要な取り組みです。

(2) 支援物資の公平な分配

・在宅避難者への支援強化

在宅避難者にも公平に物資を届けるため、物資配達サービスや移動型支援車両の導入を検討すべきです。特に障害者には、重い物資の運搬を支援する仕組みが必要です。

・特定ニーズへの対応

特別なサイズのオムツや特定の食事ニーズに応じた物資を事前に確保し、配布体制を整備することが求められます。自治体や民間企業との連携を強化し、迅速な対応を可能にする仕組みが

必要です。

(3) 子どもや高齢者への支援強化

・子ども向けスペースの整備

避難所内に子ども向けの遊び場や学習スペースを設置し、心理的ストレスを軽減する取り組みが必要です。また、教育機関との連携を通じて、避難中の教育支援を行うことも重要です。

・高齢者や障害者のケア強化

福祉避難所の数を増やし、専門スタッフを配置することで、障害者が安心して避難生活を送れる環境を整備するべきです。また、平時からの支援体制構築が求められます。

(4) 情報の充実

・避難所案内の強化

テレビ、ラジオ、インターネットを活用し、避難所や福祉避難所の場所、利用条件、提供される支援物資の情報を明確に周知することが必要です。

・地域コミュニティとの連携

地域の民生委員や自主防災組織を活用し、避難所や在宅避難者への情報提供を行う仕組みを強化するべきです。

(5) 福祉避難所の拡充と情報提供

・福祉避難所の数と場所の拡充

現在の福祉避難所の数では、災害時に対応しきれない状況が見られます。障害者が利用しやすい福祉避難所の設置数を増やすとともに、地域の特性に応じた場所選定が求められます。具体的には、公共施設や学校を福祉避難所に指定し、地域の防災計画に組み込む必要があります。

・情報提供の強化

福祉避難所の場所や利用方法についての情報が住民に十分周知されていない現状が課題です。災害時に混乱を避けるため、平時から広報活動を強化し、リーフレットやSNS、地域の集会を通じて情報を発信することが重要です。特に、障害者向けにわかりやすい形式の情報提供が求められます。

(6) 在宅避難者への支援強化

・物資配達体制の構築

避難所利用が難しい在宅避難者への支援は不十分であり、特に障害者が水や食料などの支援物資を受け取るのが困難な状況が指摘されました。この課題を解決するため、自治体が物資配達システムを導入し、登録された在宅避難者に必要な物資を自宅まで届ける体制を整えることが必要です。

・ニーズに応じた支援

在宅避難者の多様なニーズに応じた支援物資（例：特殊サイズのオムツ、医療用物資、偏食対応の食事）の準備と提供が求められます。平時から地域住民の個別ニーズを把握し、災害時に迅速に対応できる体制が必要です。

〈避難支援に関する改善提案〉

(1) 医療的ケアの充実

・医療支援体制の整備

避難所内に医療的ケアを提供できる専門スタッフや設備を配置することが必要です。また、避難所外でも利用可能な移動型医療車両の導入が推奨されます。

・持病に応じた備蓄体制

持病を抱える人々に必要な薬や医療機器のストックを、平時から地域ごとに確保することで、災害時の対応力を高めることができます。

(2) 情報提供の強化

・デジタル化と広報の拡充

避難所や福祉避難所の場所、利用方法、二次避難に関する情報を、テレビやインターネット、SNSを活用して迅速に周知する仕組みを整備することが求められます。

・地域コミュニティとの連携

地域の自主防災組織や民生委員を通じて、避難先や支援物資に関する情報を共有することで、情報格差を減らすことが可能です。

(3) 支援物資の配布体制の改善

・配送システムの導入

障害者や車を持たない住民にも支援物資を届けるため、宅配型支援サービスやボランティアによる物資配送システムを構築することが重要です。

・特定ニーズへの対応

特殊サイズのオムツや障害者向けの食品を事前に確保し、速やかに配布できる体制を整えるべきです。

(4) 金銭的支援の即時化

・迅速な給付システムの構築

災害直後に被災者が生活費や修繕費を確保できるよう、迅速に支援金を給付するシステムを導入すべきです。デジタル技術を活用した申請・審査プロセスの効率化も必要です。

(5) 子どもの保護体制の強化

・一時保護施設の整備

親と離れた子どもが安心して過ごせる一時保護施設を整備し、専門スタッフを配置することで、災害時の不安を軽減します。

・特別なケアを要する子どもへの支援

コミュニケーションに課題のある子どもや、特定の医療的ニーズを持つ子どもに対する個別の支援プログラムを開発する必要があります。

(6) プライバシー保護の強化

・個室やパーテーションの設置

避難所生活ではプライバシーが確保されず、多くの避難者が精神的負担を抱えています。個室やパーテーションの設置により、避難者の安心感を高め、ストレスを軽減することができます。特に、障害者や乳幼児を持つ家庭への優先的な配慮が必要です。

・多機能スペースの設置

避難所内に静かなスペースや子どもが遊べるスペースを設けることで、異なるニーズを持つ避難者が安心して過ごせる環境を提供します。これにより、避難所全体の快適性が向上します。

(7) 医療支援体制の強化

・医療設備と専門スタッフの配置

避難所において医療的ケアが必要な住民が安心して生活できるよう、医療設備の整備と専門スタッフの派遣が求められます。具体的には、簡易ベッド、医療機器（酸素ボンベなど）、薬品の備蓄が必要です。また、地域の医療機関や訪問看護サービスとの連携を強化することで、ケアの継続性を確保します。

・緊急時医療機関リストの作成と周知

避難者が必要な医療を迅速に受けられるよう、受け入れ可能な医療機関のリストを作成し、住民に事前に周知することが重要です。このリストは、自治体の公式ウェブサイトや防災アプリを通じて簡単にアクセスできる形が望まれます。

令和6年能登半島地震は、災害時における障害児者や医療的ケア児を抱える家族の現状と課題を浮き彫りにしました。特に、医療的ケア、情報提供、物資の分配体制、金銭的支援、子どもの保護といった分野において、災害時における障害児者や医療的ケア児者を抱える家族のニーズに十分応えられない状況が顕在化しました。これらの課題を解決するためには、現場の声を反映した柔軟な対応と、地域全体での支援体制の強化が必要不可欠です。

本稿で提案した「福祉避難所の拡充」、「在宅避難者への支援強化」、「プライバシー保護の充実」、「医療支援体制の整備」などの改善策は、平時からの計画と準備に基づくものであり、災害時の迅速かつ的確な対応の基盤となるものです。特に、福祉避難所の整備やニーズに応じた支援物資の提供体制の構築は、特に災害時における障害児者や医療的ケア児者を抱える家族を含む全ての住民が安心して避難生活を送れる社会を実現するための重要な要素です。

さらに、地域防災計画への反映を通じて、行政と地域社会が一体となって取り組むことが求められます。具体的には、情報提供の迅速化、支援物資の公平な分配、医療支援の拡充、子どもや障害者のための特別な保護体制の整備が含まれます。これらの取り組みは、災害対応の質を向上させるだけでなく、住民の信頼と地域社会のレジリエンスを高める効果も期待されます。

以上の改善提案は、災害対応の根幹を支える基盤となるべきものです。行政、地域、住民が一体となり、平時から備えを進めることで、将来発生する災害においても、住民一人ひとりが安心して避難生活を送れる社会の実現を目指すことができます。令和6年能登半島地震の経験を教訓とし、災害対応の質をさらに高めていくことが、今後の災害対策において不可欠な課題であるといえます。

第4回 あーと展覧会2024

WEB展覧会 開催中

全肢連では、文化・芸術を通して障害児者や家族が多くの人に自分の作品を見てもらう喜びや、一つの作品を完成させることで味わう達成感、生涯学習として楽しみを見つけるきっかけ作り、そして隠れた才能の発掘などを目的に「あーと展覧会」を、２０２１年より開催しています。

第４回目となりました２０２４年度は、特別支援学校・肢体不自由関係施設・事業所・各都道府県父母の会等全国の皆様から、多くの作品が寄せられ、４１１点の応募がありました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

応募全作品を全肢連ホームページで「WEB展覧会」と称して紹介しています。併せてご覧ください。

協賛：コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、株式会社協和

最優秀賞

秋田県立秋田きらり支援学校 中学部2年

福原　毅士

「秋田犬だー！」

全肢連ホームページ

https://www.zenshiren.or.jp/

または　全肢連　あーと展覧会

第4回 あーと展2024 作品応募者一覧

（敬称略）

絵画	上田　悠人
絵画	永谷　拓大
絵画	佐藤　有悟
木工	金平　悠生
書道	森山　彩乃
絵画	秋田　虎之介
染色	鈴木　陽翔
絵画	蔡　欣琪
コンピュータアート	中木　美穂
絵画	笹谷　正博
絵画	笹谷　正博
絵画	遠藤　智子
写真	山本　恭次
コンピュータアート	渡辺　智子
書道	河野　知洋
その他	石田　菜々実
その他	石井　暉紘
その他	岩﨑　政陽
その他	木村　聡基
その他	Y.S
その他	桶谷　祐貴
その他	加藤　大成
その他	遠嶋　望愛
その他	馬渕　芽衣
その他	小島　梨瑚
その他	西村　優翔
その他	宗形　真羽
その他	松原　稜
陶芸	桒原　日菜
その他	M.N
その他	N.R
その他	C.R
その他	森　良輔
写真	山中　柚奈
その他	山中　柚奈
コンピュータアート	長屋　幸杜
コンピュータアート	長屋　幸杜
絵画	櫻谷　幸樹
その他	櫻谷　幸樹
絵画	森　大希
絵画	長尾　柚輝
その他	森　陸響
その他	長尾　柚輝
その他	酒井　仁央
絵画	増田　旺生
その他	佐久間　颯空
その他	増田　旺生
その他	澤田　稜月
絵画	坂口　悠真
その他	坂口　悠真
絵画	長澤　奏
その他	市川　稚捺
その他	長澤　奏
その他	西脇　蓮
その他	川合　希依
その他	山田　航瑠
その他	磯部　智弥
その他	M・H
その他	松尾　咲良
絵画	松尾　咲良
絵画	加賀　信之介
絵画	長屋　優清
その他	加賀　信之介
その他	長屋　優清
絵画	川合　希依
陶芸	黒川　優志
その他	織田　伊吹姫
絵画	石田菜々実
絵画	織田　伊吹姫
その他	林　翔太
絵画	林　翔太
絵画	吉田　百伽
その他	石原　晃希
その他	丸井　蓮斗
その他	棚橋　亮介
絵画	石原　晃希
絵画	丸井　蓮斗
絵画	棚橋　亮介
その他	一柳　歩志
その他	鷲見　叶愛
その他	山本　航大
その他	安藤　士月
その他	森　愛花
その他	鈴木　瞭介
その他	伏見　尚太朗
その他	加藤　美帆
その他	米山　朋恵
絵画	森下　慧大
陶芸	村上　耀悠
陶芸	水上　礼王
陶芸	矢野　倖叶
陶芸	出田　あゆか
陶芸	齊藤　紅
陶芸	石橋　実桜
その他	古井　健吾

その他	渡邉　哲也
その他	板倉　あおい
その他	市川　さくら
その他	松尾　玲奈
その他	石川　あいか
その他	田中　祐輔
その他	土屋　陽人
その他	板倉　雅歩
その他	竹下　縁
その他	田中　琉希亜
書道	庄司　桜夜
その他	渡邉　賢人
その他	藤村　玲緒
その他	矢野　寛大
その他	堀込　迅馬
その他	川村　空志
絵画	近藤　加代子
写真	大草　雄
その他	亀井　春人
その他	日下　稜大
絵画	松本　千里
陶芸	ラモス　カトリ
絵画	片岡大喜
陶芸	山﨑　ちさ
絵画	北村　依愛
陶芸	塗木　遥真
陶芸	玉川　杏紗
絵画	内田 陽稀・ 青柳 心春・ 小浦 晴輝
写真	沼田　永遠
写真	前田　明
写真	花田　秀昭
陶芸	稲葉　翔
陶芸	川尻　映海
陶芸	谷川　紗希
陶芸	立石　湖子
陶芸	清水　柑那
写真	石田　純聖
写真	茂田　勇樹
写真	野原　直人
写真	田渕　暁我
写真	池田　玲那
写真	池田　璃那
陶芸	阿部　竜久
陶芸	大島　光翔
陶芸	維田　ゆい子
陶芸	我妻　俊希
陶芸	志村　俊輔
陶芸	寺岡　綾奈
陶芸	菅原　有希
その他	松久　優斗
陶芸	前田　七海
その他	武山　倭子
陶芸	富本 こころ
絵画	古賀　旬
絵画	近藤　加代子
コンピュータアート	鈴木　琴実
コンピュータアート	鈴木　琴実
陶芸	今関　慶
陶芸	竹木　智香
陶芸	西浦　結愛
陶芸	長瀬　莉子
陶芸	南　大地
陶芸	弓氣田　康
絵画	正岡　優芽
絵画	松本　明莉
木工	金平　悠生
絵画	奥　愛華
コンピュータアート	村上　耀悠
コンピュータアート	谷川　紗希
コンピュータアート	弓氣田　康
コンピュータアート	水上　礼王
コンピュータアート	松尾　玲奈
コンピュータアート	石川　あいか
コンピュータアート	田中　祐輔
コンピュータアート	板倉　雅歩
コンピュータアート	竹下　縁
コンピュータアート	カミジョウミカ
コンピュータアート	加藤　海周
写真	市川　さくら
写真	川村　空志
写真	渡邉　賢人
写真	矢野　寛大
その他	N.R
写真	桒原　日菜
写真	吉田　百伽
絵画	酒向　栞名
絵画	千葉　咲幸
コンピュータアート	カミジョウミカ
コンピュータアート	黒澤　輝龍
コンピュータアート	橋本こはる
コンピュータアート	熊谷　俊哉
コンピュータアート	栗山　蒼央
コンピュータアート	皆川　遥

コンピュータアート	横田　瑞葵
絵画	大深　理子
絵画	さくらゆき
絵画	さくらゆき
絵画	石本　ゆめの
写真	石本　ゆめの
絵画	坂本　くるみ
染色	坂本　くるみ
絵画	田山　さくら
染色	田山　さくら
その他	木原　和幸
絵画	木原　和幸
絵画	延原　柾
絵画	関　優志
絵画	岩本　一真
絵画	橋本　知汰
絵画	高橋　美結
絵画	山下　誠太郎
絵画	小濵　達也
写真	齋藤　光咲
コンピュータアート	田中　虹海
絵画	仁城　美咲
絵画	須崎　裕希
絵画	西岡　憲治
絵画	田鹿　さくら
絵画	木下　穂香
絵画	社会福祉法人安空の輩　森の工房やの共同作品
絵画	社会福祉法人安空の輩　森の工房やの共同作品
絵画	社会福祉法人安空の輩　森の工房やの共同作品
書道	office Flower Spring　共同作品
その他	office Flower Spring　共同作品
絵画	正木　孝壮
絵画	前田　羚凪
絵画	林　明佑美
絵画	永末　蒼空
絵画	高見　藍
絵画	広島市立広島特別支援学校 共同作品
その他	山下　侑花
その他	黒部　佑樹
その他	小田　亜希奈
その他	生活介護つつじ利用者
絵画	梶原　拓真
絵画	出口　悠稀
絵画	木原　義博
イラスト	髙橋　朱音
イラスト	伊森　憲
イラスト	丸山　大斗
イラスト	伊森　幸
絵画	川口　宗一郎 羽澤　颯一郎
絵画	佐藤　陸 松髙　綾美
絵画	廣兼　涼輝 松浦　なつ 松尾　航太 宮本　蓮
絵画	伊田　留美
絵画	野崎　莉生
その他	五十嵐　空翔
絵画	すーさん
絵画	かしま　けいご
その他	金子　和佳奈
書道	西尾　健一
書道	山崎　和則
書道	堀尾　修
書道	小柴　さゆり
書道	田中　浩幸
書道	大﨑　育子
書道	上府　和美
書道	足利　こずえ
書道	浜永　一美
その他	小柴　さゆり
絵画	大﨑　育子
その他	上府　和美
その他	岡本　正宝
コンピュータアート	竹間　可奈子
その他	多門　寛江
その他	中村　恵
写真	岩下　乃愛
絵画	前田　由美子
絵画	後藤　晃佑
その他	放課後デイ Granny 袋井 （共同作品 13 名）
書道	放課後デイ Granny 袋井 （共同作品 13 名）
その他	齋藤　伶凪 高山　健一 中山　倖汰
書道	浦田　吟
イラスト	木村　侑柊
絵画	齋藤　廉
写真	高谷　隼翔
写真	前田　結愛
絵画	鈴木　みりあ
絵画	岩見　咲希

絵画	大和　晃己
絵画	三浦　聖士朗
絵画	佐藤　漣
コンピュータアート	齊藤　舞
絵画	齊藤　舞
絵画	平山　莉子
絵画	遠藤　光
絵画	福原　毅士
その他	齊藤舞 平山莉子 佐藤漣
コンピュータアート	島下　姫夏
絵画	大阪府立交野支援学校高等部
絵画	坪根　茉白
絵画	坪根　茉白
絵画	新原　由雪
絵画	新原　由雪
絵画	垰　風輝
絵画	垰　風輝
絵画	古牧　優妃乃
コンピュータアート	山中　天晴
コンピュータアート	福倉　園乃
絵画	行武　智央 西谷　彩羽 木下　航
絵画	進　葵結
コンピュータアート	稲垣　明日菜
絵画	正木　惺
絵画	正木　惺
絵画	小村　虹陽
写真	大内　奏穏
写真	細川　尚志郎
写真	山本　正登
写真	髙岡　勇士
写真	片岡　優太
写真	土居　陽女
絵画	熊谷 旬之助
絵画	窪田　陸人
書道	北野　哲士
絵画	小松　陽人
書道	白久　いずみ
絵画	筒井　奏多
書道	宮﨑　優太
その他	三上　偉大
書道	松井　龍斗
コンピュータアート	三上　偉大
その他	亀田　礼乃
書道	筋浦　杏
その他	中靏　美希
書道	末田　瑛斗
その他	堀江　義也
その他	中水　陽斗
書道	伊藤　煌晟
写真	田中　英治
その他	細田　大智
その他	山田　優志
その他	岩田　和之
その他	宮川　満帆
絵画	田代　爽
絵画	片岡　智久
書道	芳村　慶次
書道	金子　花
書道	深町　都愛
書道	小山田　季生
書道	古野　光之助
絵画	田代　爽
絵画	片岡　智久
絵画	髙丸　一二三
絵画	前田　美希
絵画	松本　健剛
絵画	大重　康介
絵画	福吉　花音
絵画	茶園　杏奈
絵画	長野　蒼空
絵画	新川　遥基
絵画	大和 晃己
絵画	小山　愛希菜
陶芸	廉　勝敏
染色	藪　徠翔
染色	宮田　実佳
染色	雨宮　もも
染色	ウィリアムズ 稀言主 チャールズジュニア
染色	松本　声春
書道	鈴木　和奏
絵画	坂口　洸樹
絵画	佐藤　介星
絵画	松永　桜李
絵画	くぼた　かずのり
絵画	松山　利樹
絵画	野元　真幸
写真	鮫島　真央
写真	上赤　康太
絵画	山崎　愛翔
写真	森上　琉花
絵画	原田　夏向

絵画	笠原　大和
絵画	下田　悠陽
絵画	坂口　洸樹
絵画	下田　悠陽
絵画	松永　桜李
コンピュータアート	本橋　杏
その他	堂園　栞那
絵画	南　よつ葉
写真	吉岡　来音
写真	立花　湊
写真	村上　結莉
書道	村上　結莉
写真	小林　美雲
絵画	壷内　開斗
絵画	宮本　煌平
絵画	森下　永士
コンピュータアート	中村 歩雅
絵画	船迫　蒼空
絵画	松浦　格格
コンピュータアート	下 楓真
絵画	田中　琉偉
書道	作田　花穂
コンピュータアート	日向野　福々
写真	日向野　福々
絵画	澤田　哲英
絵画	田形　勇陽
絵画	松本　文吾
絵画	五十嵐　柚穂
絵画	加納　寧々
絵画	斎藤　玲音
コンピュータアート	小山　愛希菜
コンピュータアート	堂園　栞那
写真	新里　壮琉
コンピュータアート	増田　將志
コンピュータアート	岡　美空
コンピュータアート	岡　美空
コンピュータアート	南福岡パソコン グループ２年（2名）
コンピュータアート	南福岡パソコン グループ２年（2名）
コンピュータアート	南福岡パソコン グループ２年（2名）
コンピュータアート	中野　憲太
書道	北條　咲
書道	片山　瑠月
書道	長船　馨
書道	池永　ひなみ
写真	吉田　梨花
書道	吉武　善

2024年度
さわやかレクリエーション

さわやかレクリエーションは 1981 年に「ふれあいの輪を広げるキャンペーン」の一環事業として開始、1984 年 7 月より助成対象事業となりました。
現在は、コカ・コーラボトラーズ各社から支援をいただき、療育事業として実施されています。
今年度も「地域共生」「地域連携」への推進を目標とした事業に対して 90 事業への助成を行いました。

【申請内容】
「地域共生、地域連携　活動支援」
・スポーツや芸術活動への参画・地域住民と考える様々な災害への備え
「レジャー活動支援助成事業」
・親睦、レクリエーション、その他

2024 年度に実施した各地での事業について紹介します。

神奈川県　Z-03　80名

事業名：第2回保土ヶ谷ボッチャ大会（ボッチャフェス）
開催日：2024年5月25日(土)
会　場：神奈川県立保土ヶ谷公園　体育館

障害のあるなしを問わず、一緒に試合ができました。セルフジャッジにより、参加者が和やかなムードで楽しくボッチャを行うことができたと感じました。大会中に流行りの曲や懐かしい曲の BGM が流れ、参加者の方から好評でした。

岐阜県　Z-02　28名

事業名：障害児（者）と保護者の社会見学と交流
開催日：2024年5月18日(土)~5月19日（日）
会　場：富士サファリパーク·はままつフラワーパーク他

コロナ禍もあり、6 年ぶりの旅行でした。皆との話もはずみ楽しく過ごさせていただきました。雄大な富士の姿は一生の思い出になりました。今回若い方々がボランティアとして参加してくださり、バスの乗り降りや移動等お手伝いくださりました。

千葉県　Z−01　28名

事業名：新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難訓練
開催日：2024年11月23日(土)
会　場：にじと風福祉会

今年で5年目の避難訓練でした。初参加のお子さんやリーダーが多く緊張から指示や動き出しが中々出来なかったので改めて毎年継続する大切さを感じました。今年は初めて災害時のトイレ体験を行い新たな発見もありました。

香川県　Z-07　36名

事業名：避難所を想定した備え~段ボールベッドを組んでみよう~
開催日：2024年6月4日(火)
会　場：かがわ総合リハビリテーション福祉センター

「わが子は避難所では過ごせない」と、自宅で過ごせるように備えていますが、それでも不安がありました。能登半島地震の時の避難所運営について話を聞き、段ボールベッドに実際触れてみると、具体的にイメージすることができ、公助を身近に感じる事ができました。

神奈川県　Z-05　19名

事業名：2024年　サクランボ狩り
開催日：2024年6月2日(日)
会　場：雨敬園、山梨県立科学博物館

今年も楽しみにしていたサクランボ狩り。昼食後でしたが、美味しいさくらんぼをいっぱい食べることができました。農園の方に、こっちが甘いよ～と教えていただき、大満足でした。今後も是非続けていただきたいです。

沖縄県　Z-04　31名

事業名：講演会　成年後見制度について
開催日：2024年6月1日(土)
会　場：西原町社会福祉センター　研修会

「成年後見制度」は気になっているものの、一歩踏み出せないという方など誰にでも分かるように講師は説明いただきました。現在・将来の不安を抱えるなか、質問やアドバイスを受けることができました。

岩手県　Z-10　40名

事業名：レジャー活動　余暇活動
開催日：2024年7月4日(木)
会　場：岩手勤労身体障がい者体育館

昨年まではボッチャと卓球バレーの２種目でしたが、今年はカローリングも加わり３種目を体験しました。カローリングはカーリングに似ていて、滑らせるのが難しかったですが面白かったです。来年も３競技をやりたいと思いました。

京都府　Z-09　21名

事業名：京都市との懇談会
開催日：2024年6月17日(月)
会　場：京都テルサ 西館3階 第2会議室

毎年同じ要望を繰り返していると、なかなか届かいない思いに悔しさを感じることもあります。こうした懇談会の積み重ねから、障害のある本人だけでなく「ケアをする家族等」の課題も少しずつ社会に届くようになってほしいと願います。

広島県　Z-08　17名

事業名：日帰り旅行
開催日：2024年6月9日(日)
会　場：明石市立天文科学館

100 周年のプラネタリウムでは、わくわくしながら星を楽しみました。親も子も高齢化し、集まることさえ難しくなってきていますが、移動のバスの中では、メールや電話では語り尽くせなかった日頃の話をたくさんでき、仲間がいるうれしさを感じました。

奈良県　Z-14　34名

事業名：ボッチャ大会「みんなでボッチャを楽しもう!」
開催日：2024年8月3日(土)
会　場：大和郡山市社会福祉会館体育館

ボランティアとして参加しました。ルールを子どもたちと一緒に教えてもらいましたが、投げるのはなかなか難しかったです。子どもだけでなくお母さんお父さんも熱が入り歓声が上がるほど白熱しました。子どもたちの笑顔で暑さもふっとびました。

沖縄県　Z-12　26名

事業名：肢体不自由児者のための防災
開催日：2024年7月7日(日)
会　場：沖縄中部療育医療センター　地域交流ホーム

障害を抱える子の親として、日頃の備えをどうするか考える良いきっかけになりました。日頃からの地域との関わりや、避難経路の確認、防災グッズの準備（障害の程度によって準備するものが異なる）の大切さを強く感じました。

熊本県　Z-11　30名

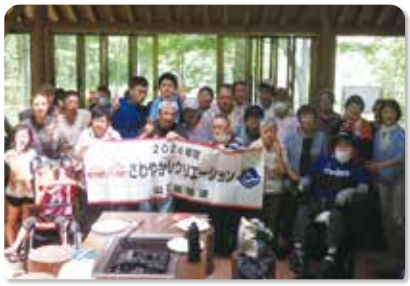
事業名：親子撮影会
開催日：2024年7月7日(日)
会　場：NPO法人あゆみ

これまで写真館で写真を撮ってもらったことがありませんでした。今回の撮影会は、通い慣れた施設、スタッフの方と一緒で安心でした。とても良い表情の写真が撮れ、家族写真も撮ることができました。とても良い思い出になり感謝しています。

神奈川県　Z-17　22名

事業名：さわやかレクリエーション
開催日：2024年8月24日(土)
会　場：インターコンチネンタルホテル「オーシャンテラス」、川崎水族館

出かけるのは大好きですが、大きくなってきて、移動も大変になってきました。個人では中々行けない場所でも皆さんと一緒だと心強いです。大きなバスに乗って、おいしいご飯を食べて、室内で涼しく水族館を見学でき、楽しかったです。



山口県　Z-16　35名

事業名：会員親睦会
開催日：2024年7月27日(土)
会　場：秋吉台家族旅行村

バーベキューをしました。お肉とやさいをいっぱい食べました。火をつけるのがたいへんでした。うちわで火をあおぎました。あつかったけど楽しかったです。またしたいです。

大阪府　Z-15　61名

事業名：親･家族交流会
開催日：2024年7月24日(水)
会　場：クロスホテル大阪　テラス&ダイニングゼロ

体験談を聞き、様々な協力を得ることができれば、医療的ケアのある方が訪問介護を利用してグループホームでも暮らせるということがわかり、ほっとした気持ちになりました。食事もおいしく、たくさんおしゃべりしてリフレッシュできました。

沖縄県　Z-20　19名

事業名：健康講座「正しい姿勢と立ち方」保護者向け
開催日：2024年8月3日(土)
会　場：西原町社会福祉センター　畳の間

県肢連の保護者の高齢化とともに、親の身体のメンテが必要になってきました。自分の身体のこと、癖を知ることでゆっくりと改善していく方法を伝授いただきました。実技を終えたあとの身体の変化にびっくり！継続していきたいです。

神奈川県　Z-19　35名

事業名：創立60+1周年記念事業 研修会･懇親会
開催日：2025年2月9日(日)
会　場：天成園　小田原駅別館　4階　コンベンションホール

かなり具体的な診療方法を聞けた事で、改めて歯科選びの重要性も知りました。また、具体的な口腔状態も見ることができ、口腔ケアの大切さも再認識しました。歯科医療と口腔ケアのお話はすごくわかりやすかったです。

大分県　Z-18　11名

事業名：大分県肢連　令和6年度ボッチャ大会
開催日：2024年7月27日(土)
会　場：大分県心身障害者福祉センター(あすぴあおおいた)

みんなでレストランで食事をするのは初めてでドキドキしていましたが、美味しくて楽しかったです。ボッチャの試合は、専用の機械も使い、みんなで白熱しとても楽しい時間を過ごすことができました。身体も心も大喜びの一日となりました。

岡山県　Z-23　20名

事業名：卓球バレー体験会
開催日：2024年9月14日(土)
会　場：岡山市障害者体育センター

障害のある人とない人が同じチームになり互いに協力してゲームができてとても良かったです。チームとして声をかけ合ったり応援したり、悔しがったり、とても楽しい体験でした。最後に１勝できてとても感慨深かったです。

大阪府　Z-22　52名

事業名：夏期レクリエーション
開催日：2024年9月6日(金)
会　場：大阪市舞洲障がい者スポーツセンター

会員、ボランティア、ガイドヘルパーが協力してゲームをみんなで楽しめるように試行錯誤して姿はとても感動的でした。ゲームを通して障害当事者とボランティア、ガイドヘルパーが一緒に笑顔で活動を楽しむことができました。

滋賀県　Z-21　25名

事業名：学習会
開催日：2025年2月14日(金)
会　場：滋賀県立障害者福祉センター　会議室

今まで入所施設に入る一択でしたが、GHの選択肢もあるのではないかと思えるようになりました。我が子はもう一年で卒業です。これからの暮らしをどうしていきたいか、親として何をすべきか考えていくきっかけになりました。

茨城県　Z-26　122名

事業名：結城市障害者福祉センター交流会
開催日：2024年9月29日(日)
会　場：結城市障害者福祉センター

様々な団体の方が参加し、総勢100名以上の交流会でした。息子はボランティアとゲームやビンゴをやったり、太鼓をたたかせてもらったりと楽しんでいました。大空の下、皆で食べたバーベキューは美味しかったです。

広島県　Z-25　42名

事業名：会員交流会
開催日：2024年9月28日(土)
会　場：鏡山公園

ボランティアの協力もあり、玉入れやサイコロじゃんけんなどのゲームを楽しみました。どのゲームもわかりやすく、大喜びで体を動かしました。ビンゴゲームも盛り上がり、楽しい交流会となりました。

佐賀県　Z-24　47名

事業名：第47回佐賀心理リハビリテイションキャンプ
開催日：2024年9月21日(土)～23日(月)
会　場：SAGAパラスポーツセンター

コロナの影響で令和２年から中止となっていた心理リハビリテイションキャンプを再開しました。訓練の時間や食事･おやつ･集団療法の時間で、当事者とトレーナーや当事者同時が深くふれあうことができました。

山梨県　Z-30　17名

事業名：秋の交流のつどい
開催日：2024年10月5日(土)
会　場：鈴廣かまぼこの里博物館

施設入所の子どもは外出許可が得られず、親のみの参加となりました。鈴廣かまぼこの里にてかまぼこ、ちくわ作りの体験を行い、道中はビンゴゲームや近況報告など行い、皆さん泣いたり笑ったりの貴重なひとときになりました。

徳島県　Z-29　71名

事業名：出前バリフリBOX2024
開催日：2024年10月9日(水)、11月11日(月)
会　場：徳島市立内町小学校、ならびに内町地区

緊急時の車いす避難では仲間たちと協力しながら、ガレキの上を車いすで移動する体験をし、楽しみながら仲間との息の合わせた操作がどんどん上達し子どもたちの車いす操作への自信につながった。地域のバリアフリーに気付く機会となりました。

大阪府　Z-28　13名

事業名：会員ランチ交流会
開催日：2024年10月30日(水)
会　場：三田屋本店 八尾

いつもの会議では、会員の方とゆっくり話す機会がなかったので、とても楽しみにしていました。美味しい食事をしながら、防災について話し合い、皆さんの災害に対する備えを聞くことができ、大変勉強になりました。参加して本当に良かったです。

島根県　Z-33　27名

事業名：会員、家族、地域との交流事業
開催日：2024年11月3日(日)
会　場：松江市総合福祉センター

はじめてのボッチャきょうぎにさんかさせてもらいました。ぼくにできるかしんぱいでしたが、おもったよりむずかしくおもいましたが、たのしかったです。らいねんもたいかいがあったら、またでたいです。ありがとうございました。

愛知県　Z-32　39名

事業名：野外例会（父母の会日帰りバス旅行）
開催日：2024年10月6日(日)
会　場：航空自衛隊浜松広報館エアーパーク、はままつフラワーパーク

ボランティアとして参加しました。好きなことだからできると自分でバスのステップを力強く乗り降りされてニコニコしていたり、飛行機を見て目を輝かせていたりする様子をみて、思わずこちらも笑顔になりました。とても素敵な１日を過ごせました。

神奈川県　Z-31　29名

事業名：会員交流　日帰りバス旅行『東京　国立科学博物館』
開催日：2024年10月6日(日)
会　場：東京　国立科学博物館

バスの中での皆さんとの会話もはずみ、博物館では野生大型犬やサバンナの哺乳類などを間近で見られてよかったです。昼食のレストランでは車いすでも素早く対応していただいて注入も持ち込み OK だったので安心して食べることができました。

愛知県　Z-36　57名

事業名：ホースセラピー体験会
開催日：2024年10月26日(土)
会　場：ピッコロファーム

馬のマルちゃんが三つ編みをしていてかわいかったです。馬に乗る前は少しドキドキしたけれど、乗ってみたら高くてけしきが良かったです。えさやりで馬の鼻をさわってみたらぷにぷにしていて気持ちよかったです。またホースセラピー体験をしたいです。

茨城県　Z-35　29名

事業名：令和6年度「ふれあい事業」
開催日：2024年10月12日(土)
会　場：那須高原りんどう湖ファミリー牧場

りんどう湖ファミリー牧場に行ってかんらんしゃにのりました。天気がよかったので、とおくの山まで見えて気もちよかったです。アルパカ、羊、馬、うさぎなどたくさんの動物をちかくで見ることができてうれしかったです。とても楽しい旅行でした。

奈良県　Z-34　21名

事業名：奈良県肢連の今後について考える親睦食事会
開催日：2024年11月29日(金)
会　場：ホテルリガーレ春日野 吉野の間

全国大会のお疲れ様会も含めて今回は保護者の集いということで、美味しい料理と楽しいお喋りで、久しぶりに親たちの交流もできて素敵な時間を過ごさせていただきました。普段お会いできない会員とも情報交換できてうれしかったです。

沖縄県　Z-39　148名

事業名：療育キャンプ（シーティング研修）
開催日：2024年10月19日(土)～20（日）
会　場：ユインチホテル南城

基本的事柄から具体的対応までも盛りだくさんな講義内容で勉強になりました。こどもたちの生活を更に安楽・快適・能動的になるように支援していきたいと思わされました。「知識は常に更新させる」という重要性も再認識させられました。

熊本県　Z-38　12名

事業名：デザイナー体験
開催日：2024年10月27日(日)
会　場：財津デザイン事務所

「絵を描かせたことはないけれど大丈夫だろうか」と不安に思っていましたが、「どんなのでも大丈夫！」と言っていただいて自由に描かせることができました。障害が重くても何かに参加できるということはとても嬉しく感じました。

大阪府　Z-37　17名

事業名：日帰りバスレクリエーション
開催日：2024年10月19日(土)
会　場：大津プリンスホテル、琵琶湖博物館

久しぶりの開催でとても楽しみにしていました。ホテル 37 階で琵琶湖を眺めながらランチを楽しみました。琵琶湖博物館では琵琶湖の成り立ちや自然を知り、ゆっくりと見て回ることができました。とても楽しい一日でした。

大阪府　Z-42　25名

事業名：堺市父母の会「社会参加交流事業」
開催日：2024年10月3日(木)
会　場：兵庫県立公園　あわじ花さじき

障害者家族 25 名であわじ花さじきに行ってきました。自然とふれあい、楽しく食事や買い物ができ、リフレッシュができました。悩みや苦労を共感しあい、障害の垣根を越えて私たちの活動が継続していけるようにしたいです。

栃木県　Z-41　90名

事業名：日光市障がい者の会スポーツ交流会
開催日：2024年10月24日(木)
会　場：日光市サンコー大沢体育館

年に一度のこの大会を、視覚障害がある私はとても楽しみに参加しました。ボッチャでは、みんなの残念そうな声や声援が聞こえました。昼食はキッチンカーのカレーやフランクフルトをいただきとても美味しかったです。秋の日の楽しい一日でした。

大阪府　Z-40　13名

事業名：1日郊外学習
開催日：2024年10月23日(水)
会　場：尼崎城

再建された尼崎城はバリアフリーでとても綺麗なお城でした。展示品に見入ったり、試着の着物を羽織り、はいポーズ！！会員さんたちも童心にかえり楽しめました。障害者ともに高齢化でこうした行事が唯一のふれあいの場となり、楽しい一日を過ごせました。

秋田県　Z-45　22名

事業名：「ボッチャとビンゴとクリスマス」
開催日：2024年12月22日(日)
会　場：介護福祉センター　きらら大ホール

今年も息子と参加しました。ボッチャ大会には大いに興味のありそうな息子ですが、移動手段を考えると立ち止まってしまいます。皆さんとお会いして笑顔で笑いあえるのが唯一の楽しみです。来年も楽しいレクリエーション期待しています。

滋賀県　Z-44　70名

事業名：文化祭
開催日：2024年11月4日(月)
会　場：湖北タウンホーム

滋賀県障害児協会と共同で開催しました。作品展示をして、普段の活動をご家族にみてもらうことができました。また、入居されている方と職員でハンドベル演奏を行い、ステージでは少し緊張した面持ちでしたが終わると晴れ晴れとした表情が見られました。

和歌山県　Z-43　331名

事業名：令和6年度　和歌山県障害児者親子のつどい
開催日：2024年10月25日(金)～10月26日（土）
会　場：びわ湖大津プリンスホテル

ビンゴ大会で景品が当たって嬉しかったです。年に一度の思いでがつくれました。他の市町の皆と会えるのが楽く交流会を通じて日頃の疲れや悩みを解消し、心身のリフレッシュを図ることができ、親睦を深められました。

神奈川県　Z-48　27名

事業名：日帰りバスツアー
開催日：2024年11月9日(土)
会　場：ヒルトン東京、東京スカイツリー

バスの乗降が心配だったのですが、昇降機付きのバスで運転手さんとガイドさんがとてもやさしく手馴れていて、安心してバスの乗降ができました。家族だけでは遠出が難しいところがあるのでこのような機会はありがたかったです。

沖縄県　Z-47　10名

事業名：施設見学
開催日：2024年11月22日
会　場：NPO法人ToiToi/NPO法人バリフリーネットワーク会議

医療的ケアの子どもたちが通う施設にとても興味津々で参加しました。中に入ると、メルヘンの中にいるような建物の形と温かな色合い、色々な色に変わるライトも、こども達の反応を意識しての物など、一つ一つに暖かみがあって感動しました。

愛知県　Z-46　119名

事業名：わいわいカーニバル～みんなもオリンピアン～
開催日：2024年11月4日(月)
会　場：岡崎中央総合公園武道館

昨年は息子の体調があまり良くなかったので、zoom にて参加しました。今回初めて息子と一緒に岡崎まで行くことができました！会員さんと交流し、みんなでゲームを楽しみ、三河高校の生徒が笑顔いっぱいに踊る姿に元気をもらいました。

愛知県　Z-51　54名

事業名：東三河ブロック療育キャンプ2024
開催日：2024年11月16日(土)～17日(日)
会　場：ホテルシーパレスリゾート

ホテルに到着して早々に娘は入浴介助して頂きました。慣れたボランティアでしたので、安心してゆっくり入浴でき、バリ島風の広いお風呂で娘も心身ともにリラックスできました。その後も一緒に踊ったり歌ったり、本当に楽しいひとときでした。

長野県　Z-50　213名

事業名：一般社団法人　星つむぎの村
開催日：2024年12月13日(金)～12月20日(金)
会　場：長野県花田養護学校

親と一緒に見て「きれいだね」と会話できてよかったです。そんな機会はめったにありません。プラネタリウムの説明など一人一人のことを考えて、名前を呼んでくれて嬉しかったし、接し方が凄く良かったです。映像の世界旅行とても楽しかったです。

大阪府　Z-49　7名

事業名：ユニバーサルレストラン見学とランチ交流会
開催日：2024年10月2日(水)
会　場：ル･クロ･ド･マリアージュ

子どもが事業所や学校へ行っている時間にリフレッシュしてもらうことを目的に計画しました。レストランの就労支援事業所で、障害のある方が一生懸命に取り組む姿に触れ、美味しいご飯を食べ、有意義な一日となりました。

北海道　Z-54　67名

事業名：全体交流会
開催日：2024年11月10日(日)
会　場：函館市総合福祉センターあいよる21

医療ケア、座席、体調等の影響を考えるとコンサートに出かけるのが難しい私たちにとって今回の吹奏楽の演奏は夢のようでした。我慢させてしまいがちな兄弟ですが、「こういう会に参加できたのは弟のおかげ、来年も来たい！」と言ってくれたことが嬉しかったです。

宮崎県　Z-53　15名

事業名：令和6年度　親睦交流会　～県北支部～
開催日：2024年11月23日(土)
会　場：宮崎県立延岡しろやま支援学校　地域教育支援センター

学校行事やイベントなどに、なかなか子どもを連れていくことができないので、今日のイベントに参加出来て良かったです。子どもがお気に入りの絵本の読み聞かせもあり声を出して笑顔で喜び、とても楽しい時間でした。

長野県　Z-52　79名

事業名：諏訪湖の遊覧乗船と散策
開催日：2024年11月30日(土)
会　場：原田泰治美術館

強風の影響で遊覧船が欠航になってしまい残念でしたが、原田泰治美術館では温かみのある作品で心がほっこりしました。また企画展の「鉄拳パラパラマンガ展」は「皆すごいね～」と見入っていました。障害のある方、お年寄りにとってもやさしい美術館でした。

北海道　Z-58　96名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年12月8日(日)
会　場：市立札幌北翔支援学校　屋内運動場

今年は家族でクリスマス会に参加しました。養護学校の先生によるアンサンブルは優しく素敵な歌声と演奏で、自分で鈴を持ち音楽に合わせて振っていました。よさこいは大迫力の演武が素晴らしく多くの参加者の皆さんが楽しまれていました。

北海道　Z-57　241名

事業名：冬のレクリエーション
開催日：2024年12月1日(日)
会　場：旭川市障害者福祉センター　おぴった

冬の外出は大変ですが少しでもいろいろな体験や経験をさせてあげたいと思い参加しました。子どもが楽しんで出来るブースがあり自分の力で手をのばし景品を取る事が出来ました。有意義な１日を送ることができ、また参加したいと思いました。

神奈川県　Z-55　31名

事業名：みかん狩り
開催日：2024年11月16日(土)
会　場：竜和園

みかん狩りは３回目の参加になります。娘がみかんを選んで一緒にハサミで取ったり、去年よりもパクパク食べてくれたりと嬉しかったです。今年は団欒スペースがあり、会員の方々とお話や、情報交換ができ良かったです。

愛知県　Z-61　22名

事業名：ふれあいコンサート&ミニ研修会「親族後見人」は何をするの?
開催日：2024年12月8日(日)
会　場：小牧ふれあいセンター

毎年楽しみにしています。音楽療法士の方々なので毎回工夫を凝らしてくださるのに本当に感心します。今回の光るブレスレットの工夫も綺麗でした。クリスマスケーキもプレゼントもビンゴの景品も嬉しかったです。

山形県　Z-60　50名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年11月16日(土)
会　場：山形市総合福祉センター

歌や、腹話術・マジックをボランティアに行っていただきました。披露してくれた方から「とても緊張したが、持ち上がってくれて嬉しかった」との声をいただき、お互いが楽しみながら実施でき、大きな成果となりました。

長野県　Z-59　33名

事業名：サンタさんと楽しいクリスマス
開催日：2024年12月158日(日)
会　場：信州松本美ヶ原温泉　翔峰

クリスマスツリーを作りとても楽しかったです。素敵なリースを家に飾ります。ホテルでのクリスマス会を毎年楽しみにしており、今年は家族で温泉に入って帰りました。兄弟児たちも一緒に楽しめてとてもありがたいです。

愛知県　Z-64　63名

事業名：東三河難病ネットクリスマス会
開催日：2024年12月14日(土)
会　場：豊橋市障害者福祉会館さくらピア

わたぼうしさんの出し物で友だちとの仲を深めることができ、楽しめました。友だちといちごの位置やケーキのデコレーションを一緒に考えながら綺麗なクリスマスケーキを作ることができました。とても美味しかったです。

奈良県　Z-63　15名

事業名：圓照寺門跡さまのお話を聞く
開催日：2025年2月6日(木)
会　場：ホテル リガーレ春日野 こまどりの間

子どもの介護の悩みにもアドバイスをいただけて日常生活を見つめ直す機会になりました。家庭状況や子どもの年齢はまちまちですが、どの話にも共通点や共感する点がありそのたびに笑ったり、うっすら涙がうかんだりと楽しい時間でした。

茨城県　Z-62　117名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年12月8日(日)
会　場：境町社会福祉会館

タペストリーの素敵な装飾、サンタの帽子をかぶった子どもたち、大人のサンタさん、トナカイにわくわくする会場に思わず「ジングルベル」を歌いだしたくなりました。抽選会も大盛り上がりで、楽しいイベントをありがとうございました。

宮崎県　Z-67　46名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年12月21日(土)
会　場：宮崎市生目地区交流センター

父母の会のイベント参加をいつも楽しみにしています。イベント前夜はなかなか寝付けなかったり、早朝から自分で起きて行く準備をしています。多肉植物の寄せ植えや音楽療法を親子で楽しく参加できました。

茨城県　Z-66　62名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年12月15日（日）
会　場：古河市総和福祉センター「健康の駅」

開会３０分前から会場が満席状態になり、日頃中々会えない仲間と談笑し、食事を頬張りながらビンゴゲームでさらに賑やかになりお互いに喜び合うことができました。会員と障害者が集うことにより会員の交流ができ結束を深めることができまし

宮城県　Z-65　25名

事業名：みんなでクリスマス会
開催日：2024年12月7日(土)
会　場：仙台市幸町市民センター

初めてケーキ作りをしました。生クリームを絞るのが大変でしたし、きれいにスポンジに塗るのも難しかったです。フルーツやサンタを乗せたら、お店で売っているような出来映えでした。自分で作ったケーキはとっても美味しかったです。

島根県　Z-70　140名

事業名：会員、家族、職員との交流事業（クリスマス会）
開催日：2024年12月25日(水)
会　場：東部島根医療福祉センター

サンタからプレゼントをもらい一緒に写真を撮ったり、「やったー」「サンタさんから車をもらったよー」と嬉しそうに職員に見せたり、すぐにおもちゃで遊んだりと、たくさんの笑顔があふれ、賑やかなクリスマス会でした。

愛知県　Z-69　373名

事業名：父母の会　2024クリスマス会
開催日：2024年12月22日(日)
会　場：豊橋市総合福祉センター「あいトピア」

太神楽や、読み聞かせ、オーケストラ演奏、サンタさんからのプレゼントなど楽しいクリスマス会をありがとうございました。手作りの楽器を配ってくださり、紐やビニールを自分で握り、音楽に合わせて鳴らすことが出来ました。

愛知県　Z-68　264名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年12月22日(日)
会　場：一宮市　西尾生涯学習センター　6階　大ホール

イエローリボンライダーとハーレーサンタも来てくれて、写真を撮ったり、バルーンアートを楽しんだり子どもや参加者に大人気でした。父母の会が、ますます充実して盛り上がる会になるよう、来年も仲間と参加させてもらいます。

長野県　Z-74　21名

事業名：いちご狩りと交流会
開催日：2025年1月26日(日)
会　場：長野県障がい者福祉センターサンアップル長野ベリーファーム

いちご狩りがあり一日楽しく過ごせる事が幸せで、みんな笑顔になりました。朝から雪が降っていましたがハウスの中は暖かくいちごが沢山なっていました。粒の大きいいちごを美味しくいただきました。

徳島県　Z-73　72名

事業名：災害時の「食」と「お口のケア」を考えよう
開催日：2025年1月11日（土）、12（日）
会　場：徳島市生涯福祉センター（ふれあい健康観）

防災食や口腔管理の様々な知見を、栄養士会、歯科医師会、歯科衛生士会の講師から、体験的に示していただき大変わかりやすかったです。「食」の形状配慮が必要な障害児者に関する知見も一般の方々と共有できました。

徳島県　Z-72　28名

事業名：防災シンポジウム
開催日：2025年1月11日(土)
会　場：徳島市生涯福祉センター（ふれあい健康館）

被災地支援に行った専門家から聞く被災地の現実と課題を掘り下げ、徳島の場合による意見交換がなされ、共感できるディスカッションが展開されました。住民の意識、共助が重要という観点も共有し、自分ができることを考える機会となりました。

岡山県　Z-77　77名

事業名：大道芸を楽しもう
開催日：2025年2月15日(土)
会　場：くらしき健康福祉プラザ5階大ホール

拍手を忘れて見ていました。アートバルーン、シャボン玉の大作の数々、ありがとうございました。ステージを降りてきて近くでパフォーマンスをしてくだり、とても楽しかったです。娘のいい笑顔が見れて良かったです。

沖縄県　Z-76　15名

事業名：新年交流ランチ会
開催日：2025年12月5日(土)
会　場：東洋飯店　那覇店

力強い仲間に出会えて心強く感じています。子どもの行き先、未来がまだ見えないのでたくさんの情報が欲しいです。子どもの事で手がかかり出かける事が難しくなって来ましたが、心配事もお話出来て良かったです。

奈良県　Z-75　8名

事業名：パソコン講習会
開催日：2025年1月28日(火)
会　場：奈良県社会福祉総合センター　第一会議室

とても勉強になりました。知っていたつもりでもうまく使えなかったり、使う場面がわからずそのままにしていたことも理解できました。フェイクアラートの対処の仕方は家族や友人にもしっかり伝えたいなと思いました。

福島県　Z-80　44名

事業名：防災教室
開催日：2024年9月14日(土)
会　場：指定生活介護事業所カラーの夢

避難後の「T（トイレ）、K（キッチン・温かい食事）、B（ベッド・寝る）」の大切なこと、そして「備えた分だけ憂いなし」ということを学びました。防災食の調理では参加者同士が協力して行い楽しむことができました。

福島県　Z-79　24名

事業名：プレミアムさくらんぼ狩り
開催日：2024年6月22日(土)
会　場：王将果樹園

入会して初めての事業に参加しました。真っ赤で粒が大きくて甘く、今まで食べたことが無い美味しいさくらんぼでした。美味しそうに食べる子どもの姿を見て参加して良かったと思いました。会員の皆さんも優しく入会して良かったなと思いました。

福島県　Z-78　26名

事業名：地域住民とのレクリエーション
開催日：2024年6月8日(土)
会　場：須賀川市民交流センターtette たいまつホール

息子が待ち望んでいた「レクリエーション」に参加しました。準備体操を兼ねた水戸黄門体操に始まり、最後の宝拾いまで笑顔の絶えない本当に本当に楽しい時間でした。来年のレクリエーションにも元気に参加できるように今から準備しておきます。

石川県　Z-83　158名

事業名：映画招待会
開催日：2024年8月25日(日)
会　場：ユナイテッド･シネマ金沢

普段、障害や車いす移動のため、映画館で映画をみる機会がないので、嬉しかったです。車いすごと運んでくれたり、スタッフの方々が親切に声かけたり手伝ってくださいました。映画鑑賞はもちろん楽しいですが、それ以上に喜びが大きかったです。

石川県　Z-82　45名

事業名：防災セミナー
開催日：2024年5月23日(木)
会　場：金沢市教育プラザ 富樫

能登半島地震発災に伴い、体験者の声を聞くとともに石川県の災害時の支援体制について講演いただきました。「あんしんファイル」、要援護者個別支援計画の作成、つながり・連携の大切さ等を再確認できました。

愛媛県　Z-81　27名

事業名：クリスマス会
開催日：2024年12月21日(土)
会　場：愛媛県障がい者更生センター　道後　友輪荘

食事を囲みながら、ワイワイガヤガヤと歓談の場になっていました。人とコミュニケーションをとることを私は『言葉のキャッチボール』と呼んでおり、とても大切なことだと思います。貴重な1日だったように思えます。

神奈川県　Z-86　80名

事業名：藤沢市肢体不自由児者父母の会　クリスマス会
開催日：2024年12月14日（土）
会　場：神奈川県立鎌倉支援学校　体育館

毎年恒例の「藤沢ウィンドオーケストラ」の生演奏に始まり、クリスマス会らしい催しが盛りだくさんで、素敵な会だったと思います。ボッチャは特に盛り上がり、笑顔で楽しく過ごせました。素敵なプレゼントをありがとうございました。

石川県　Z-85　34名

事業名：ひとみきらきら　こころぽかぽか　絵本教室
開催日：2024年11月30日（金）
会　場：石川県立いしかわ特別支援学校　1階　小体育館

増田先生の講義を聞ける機会でもあり、大変貴重です。他国の教育例に基づき、日本の福祉や多様性に対する考え方の違いをよく知ることができました。とても勉強になりました。音楽がより入ると、娘のリラックス度も高まりました。

石川県　Z-84　45名

事業名：会員交流会
開催日：2024年10月13日(日)
会　場：社会福祉法人　フォルムののシティ

はじめて参加しました。1時間で紙芝居、手遊び、劇、ピアノ、マツケンサンバを楽しめ、盛りだくさんでした。歌も子どもが楽しそうでした。サンバも楽しく感動しました。楽しい一日となりました。準備等ありがとうございました。

広島県　Z-89　35名

事業名：令和6年度広島県心身障害児者父母の会連合会研修会
開催日：2024年11月14日(木)
会　場：RCC文化センター

障害者の暮らしの場を考える研修会を開催し、さまざまな問題を一緒に考えました。講師の方に気軽に相談ができたようで、温かい研修会になりました。重い内容でしたが、最後にほんわかした気持ちで優しく背中を押された気分で終了しました。

長崎県　Z-88　110名

事業名：心理療育1日キャンプ
開催日：2024年8月24日(土)、25（日）
会　場：長崎県立佐世保特別支援学校、国立諫早青少年自然の家

スーパーバイザーの指導のもと「動作法」の訓練を行いました。一人一人の課題に対してじっくりと取り組むことができました。レクレーションや他の参加者の方との交流もあり、身体だけでなく、心のリラクゼーションもできました。

愛知県　Z-87　48名

事業名：令和6年度　西尾張ブロック連絡協議会　野外療育キャンプ
開催日：2024年7月21日(日)
会　場：名古屋市科学館および昭和日常博物館ほか

プラネタリウムでは涼しい中で満点の星空を見ることができました。家族で旅行に出かけることが難しいので、こうして皆さんの力をお借りして出かけることができ、とても嬉しいです。またこのような機会があれば是非参加したいです。

※ 2025 年 3 月 7 日までに報告があった事業を掲載しました。

2025年度も
“さわやかレクリエーション”事業を
実施します。
2025年4月上旬には、
各都道府県肢連宛に募集要綱を
お届けいたしますので、
よろしくお願いします。

兵庫県　Z-90　111名

事業名：地域交流会
開催日：2024年11月21日(木)~2025年3月9日（日）
会　場：魚住市民センター、明石市立総合福祉センター他

民生児童委員の方々や同じ地域に住む他のご家族と直接お話しをする中で、情報を共有したり、課題を考えるきっかけになり、改めて地域と繋がる大切さを知ることができました。交流会の開催ありがとうございました。

わ　昭和49年10月5日　第三郵便物認可
令和7年3月20日発行　号外

編集　一般社団法人　全国肢体不自由児者父母の会連合会
発行　社会福祉法人　全国心身障害児福祉財団　理事長　伍藤忠春
〒170-0003　東京都豊島区南大塚三―四三―十一　☎五九二七―一二八四
定価一二〇〇円（講読料は会費に含まれます）